



石崎さん②からのパスを受けとる練習をする鈴木さん

道東北初 八学大に女子ラグビー部発足

八戸

追い掛けるラグビー、傍らには目標を共有する仲間。八戸学院大学の女子ラグビー部が4月発足した。日本の登録はなく、同大が初めてとみられる。競技人口の少なから、高校の部活では男子に交じって練習せざるを得なかった女子選手たちは、互いを高め合える仲間を得た喜びをかみしめている。

(新村菜穂)

交差点

部員は現在6人で、女子競技の主流・7人制の試合ができるまではあと1人。地元八戸市からは鈴木佳寿音さん(18)と八戸学院光星高出・田端ひかるさん(18)の2人も高校ではラグビー部に所属し、男子部員の中で数少ない女子選手として活動してきた。練習中は接触



八戸学院大学女子ラグビー部の選手たち。奥左が工藤監督、同右が山下ヘッドコーチ

「私たちのチーム」やっと

7人制試合まであと1人

プレーで男子に気を使わされたり、手加減させたりしていると感じ、申し訳なく思うことが多かったという。2人は幅広い年代の選手が所属する同市の女子チーム「八戸レディーズ」でも練習してきたが、高校時代の大会出場は県や東北の選抜チームとしての数回に限られていた。鈴木さんは

が所属する同市の女子チーム「八戸レディーズ」でも練習してきたが、高校時代の大会出場は県や東北の選抜チームとしての数回に限られていた。鈴木さんは

「(同じチームに)同世代の女子の仲間がいるのは、心の底からうれしい。地元八戸で競技を続けたい」と思っていた。(チーム発足など)環境を整えてくれた

皆さんには感謝しかない」と語る。大島璃来さん(18)は「秋田工高出」は「女子ラグビーの仲間を増やすために頑張りたい」と意気込む。競技人口拡大は、選手たちの共通課題。田端さんは「みんなから応援されるチームが目標。チームを育てて名前を広めたい。そのためにも自分が選手として強くなりたい」と目標を語る。3月に右足の手術をしたばかりで、思うような練習ができずにいるが、早期復帰を目指す。